

＜ 資料 5 ＞

宇治市の小中一貫教育 12 年間の検証のポイント

- 1 量的な側面（学力調査やアンケート結果）や質的な側面（プロジェクト会議の意見、学校へのヒアリングや調査）を踏まえた結果、以下の目標①～⑦の到達が確かめられる。

- 9年間を見通した系統的・継続的な学習指導による児童生徒の学習意欲の向上や学習習慣の確立と確かな学力の育成（目標①）
- 9年間を見通した系統的・継続的な生徒指導による児童生徒の個性の伸長と社会的な資質や能力・態度の育成（目標②）
- 9年間を見通し、地域に根ざした特色ある教育活動による自分の住む地域に自信と誇りを持ち地域に貢献する人材の育成（目標③）
- 児童生徒間の多様な交流活動や地域との交流による豊かな人間性や社会性の育成（目標④）
- 教職員が児童生徒一人ひとりへの理解を深めることによる個に応じた指導や支援の充実（目標⑤）
- 小学校と中学校の教職員が相互に交流を深めることによる教職員の資質と指導力の向上（目標⑥）
- 中学校区を単位とした地域・保護者同士の連携を深めることによる家庭・学校・地域が一体となった教育環境づくりの推進（目標⑦）

2 着目すべき成果

- （1） 全国と比べても高い割合で進んでいる小学校と中学校教員同士の連携による、児童生徒理解と個に応じたきめ細やかな指導の実践
- （2） 各中学校ブロックに配置しているラーニングコーディネーターが、教職員連携の要として、「学力」の定着向上に向けた重要な役割を担っている。
- （3） 児童生徒交流の工夫により、中学校への期待の高まりや自己肯定感の高まり、豊かな人間関係の構築につながっている。
- （4） 「宇治学」（総合的な学習の時間）が「地域に根差した教育活動」として、小中一貫教育の大きな柱になっている。

3 着目すべき課題

児童生徒の主体的な学びのさらなる推進	全国学力・学習状況調査の教科正答率は上昇傾向にあるものの、依然、多くの項目で全国平均を下回っている。また、児童生徒の主体的な学びをさらに進めることが求められるなか、ラーニングコーディネーターを一層活用し、具体的な授業改善対策を推進する。
教職員連携の質を高めた児童生徒理解等のさらなる推進	教職員連携が宇治市小中一貫教育の極めて重要な土台であることを再認識し、より一層、児童生徒理解や学力の定着・向上につなげるため、教職員連携の質をさらに高めるための検討を進める。
「宇治学」を基盤とした探究的な学びの推進	「宇治学」の推進が、「児童生徒の探究的に学ぶ力の確実な獲得」や「よりよい宇治を築こうとする子どもたちの態度」につながるよう、宇治学副読本を効果的に活用した学習活動の質の向上について検討を進める。特に、「情報の整理・分析」「まとめ・発表」時の ICT の効果的な活用を進め、児童生徒の思考力・判断力・表現力の育成を目指す。
学校を核とした地域づくり	宇治市においても、地域行事への児童生徒の参加が減少傾向にある等、地域コミュニティの希薄化が進む中、学校を核とした地域づくりについての検討を進める。

今後の展望 基本方針(案)

1 小中連携の質をさらに高め、主体的・対話的で深い学びの実現による学力向上

1 系統的・継続的な学習指導 3 宇治学 6 教職員連携

重要

- 児童生徒が自ら考え、自ら課題設定し、主体性を育む授業改善
- 「宇治学」の推進による「児童生徒の探究的に学ぶ力の確実な獲得」や「よりよい宇治を築こうとする子どもたちの態度育成」

2 保幼こ小連携から小中一貫教育で培う「育ちと学びの連続性」による人づくり

1 系統的・継続的な学習指導 2 系統的・継続的な生徒指導と児童生徒理解
6 教職員連携

重要

- 小学校6年生から中学校1年生へのなだらかなつながりと、環境の変化を前向きに捉えるメリット(『中1ジャンプ』)の両面を大切にした小中連携
- 乳幼児教育・保育支援センターとの連携による、就学前の育ちや学びを活かした小中一貫教育との連続した学びの実現

3 児童生徒活動や学校・家庭・地域が協働した取組の推進

4 児童生徒交流 5 学校・家庭・地域が一体となった教育環境 6 教職員連携

重要

- 学校を核とした地域づくり
- 『コミュニティ・スクール』による中学校ブロックを意識した小中連携
- 「家庭・学校・地域との協働活動」への主体的な参画

